海外市場情報 －64－「米国生活の近況」

Global Powder Technology Market −USA and More −64−

AAAmachine, Inc.（米国） 鍋島 壮輔

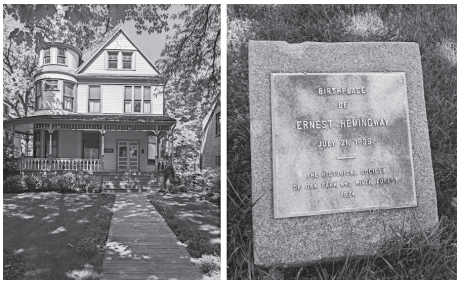
1. はじめに

今年のシカゴは中々気温が上がらず、5月も半ばになってようやく初夏らしい日が続くようになった。長く寒い冬を経たこの時期は、自ずと夏への期待が高まってくる。シカゴをはじめ米国北部の夏は短いため、できるだけ有意義に過ごしたい。そこで今回はシカゴの隠れた有名スポットの紹介を前半にまず行い、後半に米国展示会動向の一端として、ニューヨークはマンハッタンにて開催された展示会への参加体験を記載する。

2. シカゴで生まれた文豪

「武器よさらば（Farewell to Arms）」、「誰がために鐘がなる（For Whom the Bell Tolls）」、「老人と海（Oldman and the Sea）」など多くの名作を残したアーネスト・ヘミングウェイだが、シカゴ西郊の町オークパーク（Oak Park）で生まれたことは意外と知られていない。ただ、いざ知ってみると、彼の堅く厳正で無駄のない筆致がシカゴの厳しい寒さと馴染む気がしてくるのではないだろうか。

朝の陽気を感じたある週末、ふと思い立ち、ヘミングウェイの生家を見てみようと3歳になった娘を連れて車を走らせてみた。スマホの道案内に従い進んでゆくと、閑静な住宅街の中に溶け込む一軒家に到着する。他の家に比べて目立つわけでもなく、案内の看板がなければいたって普通の上品な家だとしか思わなかっただろう。到着した時間が早かったため中には入れず、外から写真を撮るだけでその日は済ませたが、少しの間、彼の作品に思いを馳せる時間を持てたことは良い思い出となった。冬が来るまでにはまた時間を作ってゆっくりと訪れたい場所である。



ヘミングウェイの生家と記念碑：筆者撮影

なおこの時は確認していないが、生家の近くにはヘミングウェイ博物館（Ernest Hemingway Museum）があり、彼の写真や作品、生前の日記や手紙といった収蔵物を見ることができるようである。ノーベル文学賞受賞者であり、ハードボイルド文学の原点にしてアメリカを代表する作家、ヘミングウェイの足跡を辿りたい方にはお勧めのスポットである。ただし、コロナ禍によって営業時間や入場に制約が設けられているかもしれないため、興味のある方は事前に調べた上でお越しになることを推奨する。

オークパークにはヘミングウェイの他にも日本人に馴染み深い著名人の作品が多く残されている。帝国ホテルの設計を手掛けた建築家、フランク・ロイド・ライト（Frank Lloyd Wright）による建築物がそれである。この夏、アメリカを代表する文豪や建築家の“聖地巡礼”をシカゴで行うのも趣があって良いのではないだろうか。

3. マンハッタンでの展示会

ところは変わってニューヨーク。ここでInterphexという医薬品・化粧品の研究・製造に関わる企業が出展する展示会が5月末に開催された。ここに出展する日系企業のお手伝いとして、筆者も一年半振りにマンハッタンを訪れる機会をいただいた。展示会場はJavits Center（ジャビッツ・センター）というマンハッタンでは定番の展示会場で、新名所のベッセル（Vessel）も近くに望むことができる。連日好天に恵まれたこともあり、心配された客足も当初の不安を払拭するほどの活況を呈した催しとなった。

昨年シカゴで開催した米国粉体展にはまだコロナによる沈滞ムードが漂っていたが、今回の展示会ではそういった暗さは感じられなかった。それでも例年に比べるとまだ控えめな開催だったとのこと、今後は他の展示会と共に本来の元気を取り戻してくるのではと期待が膨らむ。

会場の様子：筆者撮影

ニューヨークでは日ごとのコロナ罹患者数が5000人前後で推移していたものの、主催者はマスク着用義務もワクチン接種有無も参加者に問わない方針を表明しており、実際にマスクをしている来場者は全体の数パーセント程度だったように思う。コロナによる失速は完全克服こそ出来ていないものの、確実に社会は前進していると思わせる展示会だった。

4. おわりに

シカゴとニューヨークの両都市から最近感じるのは、コロナからの復活へ向けた力強い前進の力である。共に冬の寒さが厳しい地域で、これから待望の夏を迎えることになる。コロナに続きサル痘が新たな脅威として出てくるなど、依然として油断はできないものの、日ごと上昇する気温のように、上向きな気持ちで仕事に取り組んでゆきたい。